

## 県内の患者数

矢印は、前週の数に対して ↑ 増加 ↓ 減少 → 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↑ 1	0	百日咳	↓ 0	2
RSウイルス感染症	↑ 50	35	ヘルパンギーナ	↓ 8	13
咽頭結膜熱	↑ 8	4	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↓ 70	73
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	↓ 57	72	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 158	174	流行性角結膜炎(はやり目)	↓ 10	11
水痘	↓ 54	57	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↑ 26	18	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑(りんご病)	↑ 7	3	マイコプラズマ肺炎	↑ 10	7
突発性発しん	↑ 35	27	クラミジア肺炎	↓ 0	1

報告が多い  
感染症

- 感染性胃腸炎
- 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 158 件(前週報告数 174 件)と減少。地区別では、山鹿、宇城、有明に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の27件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 流行性耳下腺炎は、報告数 70 件(前週報告数 73 件)と減少。地区別では、菊池、天草、熊本に多く報告がみられる。年齢別では、3歳及び4歳の12件を最多に、10～14歳以下からの報告である。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 57 件(前週報告数 72 件)と減少。地区別では、菊池、熊本、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、7歳の12件を最多に幅広い年齢層からの報告である。

## ◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	0	16	3	35	36	22	9	2	13	0	0	33		8				4
山鹿保健所	0	0	0	0	15	3	0	0	0	0	0	1	*	*				
菊池保健所	0	16	1	10	17	9	1	0	5	0	1	10		2				
阿蘇保健所	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	0	8	0	2	15	1	2	0	5	0	0	3						
水俣保健所	0	1	0	0	4	0	0	1	1	0	0	3	*	*				
人吉保健所	0	5	0	3	11	5	0	0	1	0	0	1	*	*				4
有明保健所	0	0	3	3	23	4	0	0	4	0	0	8						2
宇城保健所	0	0	0	2	22	8	0	2	2	0	0	2						
天草保健所	1	4	1	2	7	2	14	0	4	0	7	9						
計	1	50	8	57	158	54	26	7	35	0	8	70	0	10	0	0	10	0

## ◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	
インフルエンザ	1		1																			
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	50	9	17	16	6	1	1															
咽頭結膜熱	8			3	2			1		1			1									
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	57			1	4	3	10	7	6	12	2	2	7		3							
感染性胃腸炎	158	4	14	27	11	14	11	10	11	8	8	8	21	1	10							
水痘	54	2	2	12	10	7	11	4	5		1											
手足口病	26		4	7	5	4	2	4														
伝染性紅斑	7		1				2	1	1	1		1										
突発性発しん	35	2	15	15	2	1																
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	8		1	1	2	4																
流行性耳下腺炎	70			4	6	12	12	9	10	5	4	3	5									
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	10			1												1	2	2	1		3	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	10		1	5	3									1								
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

ありませんでした。

マイコプラズマ肺炎



マイコプラズマ肺炎が、例年と比べ全国的に多く報告されています。熊本県の今週の基幹定点医療機関(15機関)からの報告数は10件で、1週間の報告数としては平成15年以降最も多い数です。マイコプラズマ肺炎は、幼児、学童、青年を中心に、晩秋から早春にかけて報告数が増える傾向がありますので、引き続き注意が必要です。マイコプラズマは細菌の一種で、感染患者からのくしゃみや鼻水による飛沫感染、接触感染により感染します。感染すると、2~3週間の潜伏期を経て、発熱、全身倦怠、頭痛などの症状が見られ、その後咳が始まります。咳は、徐々に強くなり、解熱後も長く続きます(3~4週間程)。また、マイコプラズマ肺炎は、時に重症化することがあります。予防するにはうがいなどの一般的な感染症予防が重要です。また、患者との濃厚な接触を避けることも有効な予防法の一つです。

